Longyear Museum

Mary Baker Eddy

キリスト教科学の発見者、創始者、そして指導者

短くまとめた伝記

発見者、創始者、指導者とは、メリー・ベーカー・エディの長く複雑な生涯を 織りなす糸のようなものである。この糸は、出来事の内容ごとに また年代順に、この短くまとめた伝記に織りこまれている。

初期

ニューハンプシャー州ボウのメリー・モース・ベーカー、1821年

リー・ベーカー・グローバー、1853年頃

1821年7月16日に女の子がニューハンプシャー州ボウの農場で生まれた。彼女は後に全世界に、メリー・ベーカー・エディとして知られるようになる。メリーは、アビゲイルとマーク・ベーカーの6人の子供の末っ子であった。メリー・ベーカーは、両親に似て、極めて宗教的であり、熱心に聖書を読んで育った。

メリーが14歳になった1836年に、ベーカー家はサンボーントン（現在のティルトン）へ引越した。ダートマウス・カレッジを卒業したメリーの兄アルバートは、しばしば彼女を助けて、彼女が家で幅広く書物を読み、教育が受けられるように努めた。メリーは元気なときはサンボーントン・アカデミーに通った。

しかし、メリーは子供時代も10代もずっと健康問題で大変苦しみ、虚弱であったため、家族も友人も、彼女は大人になるまで生き延びることはできないのではないかと恐れていた。

若くしての妻・未亡人・母、1844年

ジョージ・ワシントン・グローバー、1830年代

彼女は、1843年12月10日にジョージ・ワシントン・グローバーと結婚し、メリー・B・グローバー夫人となった。彼女は22歳であった。サウスカロライナ州で建設事業を営んでいたジョージは彼女より11歳年上であった。クリスマスの日に、新婚の二人はチャールストンに向かって出航した。

6ヵ月後に夫は黄熱病のために急逝した。そのため彼女ほとんど無一文の状態で、北部のベーカー家へ戻った。彼女は未亡人であり、身重であった。ベーカー家で、息子、ジョージ・グローバー・ジュニアは、9月12日に誕生した。

既に虚弱であった彼女の健康状態は、それからの数年間に、悪化していった。メリーはしばしば体の苦痛で動けなかったため、家族は、近所の農場の夫婦、マハラ・チェニーとラッセル・チェニーが幼いジョージの世話をするように手配した。

初期

破られた約束

ダニエル・パターソン

1853年に彼女はダニエル・パターソンと結婚した。それは、彼が、息子のために家庭を築くと保証したからであった。パターソンは、まもなくこの合意を破った。その後も彼は多くの約束を破ったが、これはその最初のものであった。相互に愛情があったにもかかわらず、この結婚は悪化していった。

メリーの幼い息子、ジョージ・グローバーは、ニューハンプシャー州の小さな田舎町、ノース・グロトンにあるチェニー家の世話になっていた。息子の近くに住むために、パターソン夫妻はニューハンプシャー州のフランクリンからノース・グロトンへ引越した。しかし、結局、息子の世話をしていたチェニー夫妻は、西部に引越し、11歳のジョージも彼らについて行った。この少年は20年以上も自分の母親と再会することはなかった。

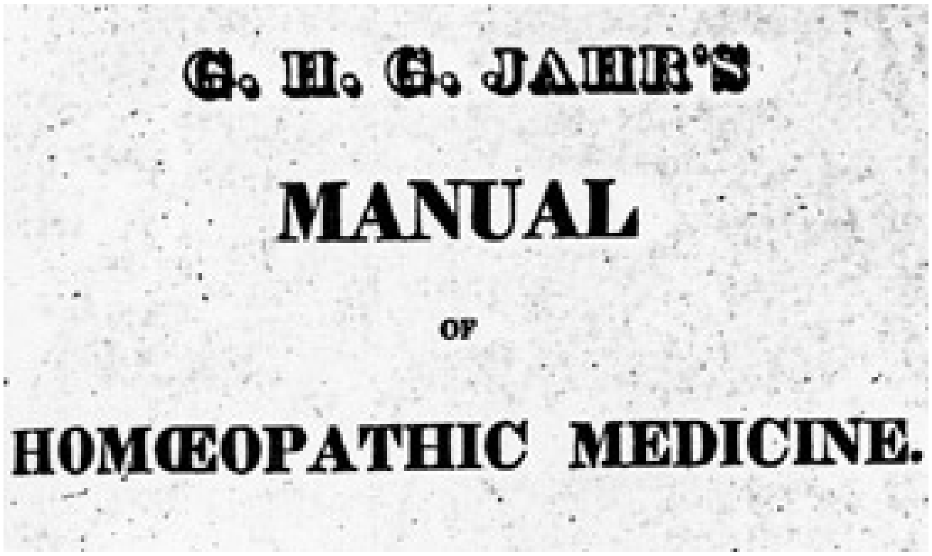
パターソンは、しばしば寝たきりで半病人の妻を経済的に支えるために、ノース・グロトンの彼らの家の近くにあった製材所の所有権の半分を購入した。この事業はただ負債を残しただけであった。1860年までに製材所と彼らの家は抵当流れとなってしまった。夫妻は引越すしかなかった。ラムネイでの借家は、1~2年の間は、安らぎを与えてくれたが、夫は、しばしば家を離れていた。

パターソン製材所、ニューハンプシャー州ノース・グロトン

パターソン夫妻は、靴製造業で繁栄していた都市リンのはずれにあるマサチューセッツ州スワンプスコット、パラダイス・ロードにあるアパートの2階に最終的に落ち着いた。ここで、1865年にメリー・B・パターソンは、自分自身にとってのまた何万人という人々にとっての転機を迎えようとしていた。

発見者： キリスト教の科学

健康への探求、1840年代~1860年代


G. H. G. JAHR'S

MANUAL

OF

HOMŒOPATHIC MEDICINE.

巻頭ページ：同種療法についての手引書

1840年代から1860年代の半ばまで、彼女は、当時の様々な治療法を用いて自分の健康を回復させようとしていた。そのなかには、同種療法、水治療法、グラハム食餌療法があった。その頃、多くの自称「癒し手」が、医薬を用いない、いかさま科学治療を宣伝していた。

1862年に彼女はこのような「癒し手」の一人であったメイン州ポートランドのフィニアス・P・クインビーの宣伝ちらしを見て、彼を訪問した。その治療により、しばらくの間、彼女の健康は著しく向上した。

聖書を深く信じていたため、彼女は、クインビーの治療法を見て、はじめは、福音書にある「あらゆる病」を癒したイエスの方法を思い出していた。彼女が試みた他の「治療法」と同じように、クインビーの治療法も、効果は長続きしなかった。

色々と違った方式を試みることにより、彼女は、身体的な病気の原因は心的であると考えるようになった。これらの経験は、聖書の癒しについての研究とあいまって、彼女を霊的発見へと導いた。この発見を、彼女は最終的に**キリスト教科学**（Christian Science）と名づけた。

発見者： キリスト教の科学

「祈りのみによる」回復、1866年

マサチューセッツ州スワムプスコット、パラダイス・ロード、ここで彼女の癒しが起こった。

1866年2月1日の夕方、マサチューセッツ州スワンプスコットで、パターソン夫人は、凍結した歩道で転倒し、重症の内傷を負った。翌日、医者は彼女をそりで自宅に送り届け、2階にあるパターソンのアパートへ運んだ。ストーブの暖かさが届くよう、彼女は、台所の簡易ベッドに寝かせられた。そして、そこに横になり、立ち上がることも歩くことも出来ず、ほんの少しでも動くと激しい痛みに襲われた。

付き添っていた医者は、回復の見込みはほとんどないとみなしていた。心配した友人たちが応接間に集まり、最悪事態が来るのではないかと恐れていた。牧師が呼ばれた。その時、彼女の夫は在宅でなかったため、すぐに帰宅するように電報が打たれた。3日間が過ぎたが良くなる兆しは何もなかった。

日曜日に彼女は聖書をひも解き、イエスによるある癒しの話に深い霊感を受けた。 深遠なる霊的洞察を得た瞬間に、彼女は、突然、誰の手も借りずにベッドから起き上がり、部屋を横切ることが出来た。友人たちは仰天した。彼女は「これは祈りのみによってもたらされました」と彼らに語った。数ヵ月後に健康状態がよくなるにつれ、彼女は、あの瞬間が転機であったことに気づいた。

発見者： キリスト教の科学

終わりと始まり、1866年

メリー・B・グローバー、1867年頃

数ヶ月後、夫ダニエル・パターソンは彼女の元を去り、彼との家庭を維持するため苦闘した数年間に終止符が打たれた。

それからの10年間、彼女は、亡くなった最初の夫の名前、グローバーを再び用いた。乏しい状況下、彼女は借間から借間への引越しを余儀なくされた。

彼女は、このような状況下ずっと、自分を癒した力を理解しようと、絶え間ない探求を続けていた。彼女は、短時間ではあったが、霊的なことを深遠に明晰に垣間見る経験をした。しかし、それは始まりに過ぎなかった。

彼女は、45歳になろうとしていて、困窮し、虚弱で、誰一人として頼る人がいなかった。彼女が達成したすべてのことは、その後の45年間に起こったのである。

病人を癒す

1866年以降、彼女は、自分の発見を試し、祈りのみによって、次から次へと患者を癒していった。

臀部を脱臼した女性も、指をひどく化膿させた男の子も、結核の男性も、彼女が海岸で会った生まれつき足が悪い子供も、事故で押しつぶされた御者も癒された。 腸炎、肺炎、ジフテリア、癌、精神異常、硬直した関節、聾者、唖者、脳脊髄膜炎、カリエスにかかった骨、奇形の手足に苦しんでいた患者を癒したが、それは、グローバー夫人が行なった数多くの癒しの一部にすぎなかった。

聖書を研究する

彼女は自分が経験した癒しと**神**の霊的な法則がどのように関連しているかを探求した。そして、後に、「… 1866年の後期にすべての原因は**心**［**神**］ にあり、あらゆる結果は心的現象であるという科学的確信を得た」と記した。

1867年から1870年までの3年間に、彼女は、ますます聖書、特にイエスの癒しについての研究を深め、おびただしい量のメモを作成した。この何百ページにもわたるメモにより、彼女の考えがどのように発展していったかをたどることが出来る。彼女の発見は、徐々に明確になっていったが、それに伴い、説教やクラス指導が生まれ、そして、著書が出版された。この著書により、彼女は当時最も尊敬され話題となる女性の一人となったのである。

キリスト教科学

彼女の発見にはまだ名前がなかった。彼女は、その発見は、「しるしをもった」原始キリスト教の復帰を実現することであると理解していた。初めは、自分の体系を「道徳**科学**」と呼び、その心的性質を強調した。後に、この宗教を「**キリスト教科学**」と名づけ、その**キリスト**的性格を強調した。後に、彼女は次のように書いている。

> 「私は、それをキリスト教と名づけた。なぜなら、それは、思いやりがあり、役に立ち、霊的であるからである。私は、**神**を、不滅の**心**と呼んだ。罪を犯し、苦しみ、死ぬものを、滅びる心と名づけた。肉体的感覚、すなわち感覚に訴える性質のものを、誤りや影と呼んだ。**魂**を、実質と名づけた、なぜなら、**魂**のみが、真に実質的であるからである。**神**を、個人的な存在とみなした、しかし**神**の肉体性は、否定した。実在するものを、永遠であると主張した、そしてその正反対のもの、すなわち一時的なものを、非実在と説明した。**霊**を、実在するものと呼んだ、そして物質を実在しないものと呼んだ」。

Retrospection and Introspection （*『回顧と反省』*）

癒された患者がますます多くなっていたが、彼女は、癒しは、道徳的再生と霊的成長への入り口にすぎないと断言した。彼女は次のように書いている。

> 「身体の病気を癒すということは、**キリスト教科学**の最も小さな部分である。より高い無限の善の領域にあって、癒しは人の考えと行動を呼び覚ます召集ラッパの音にすぎない。罪を癒すことが**キリスト教科学**の重要な目的である。そしてこの仕事は病を直すよりむずかしいことがある。それは人間というものは病気になることを好まないが、罪は好んで犯すからである」。

*『神性**科学**の基本』*

（注：**キリスト教科学**の宗教をより深く理解したいと思われる方は、**キリスト教科学**の教科書、メリー・ベーカー・エディ著『**科学**と健康－付聖書の鍵』および**キリスト教科学**の刊行物や書籍をご参照ください。これらは、**キリスト教科学**の教会が運営している読書室や**キリスト教科学**出版協会で求めることができます。）

教師： キリスト教科学の癒し

キリストによる癒しの科学を教える

マサチューセッツ州エームスベリのバグリー家の応接間、ここでグローバー夫人は初期の生徒たちを教えた。

もし、癒すことが、リンのある孤独な婦人の個人的な才能であっただけならば、**キリスト教科学**は彼女を超えて成長することはなかったであろう。しかし、彼女は，癒しは、**神**の普遍的な法則を示す証拠であり、人々へ教えることが出来るものであると理解していた。

発見後しばらくして、彼女は、**キリスト**による癒しの**科学**を教え始めた。最初は小さく、1867年初頭には、生徒はたった一人、ハイラム・クラフスだけであった。それから、マサチューセッツ州エームスベリで二人目と三人目の生徒が加わった。

1868年の9月に、彼女はマサチューセッツ州ストートンにあるウェントワース家族の家の一部屋を借りた。四人目の生徒、サリー・ウェントワースは、祈りを通して癒す実践士となり、成功を収めた。

ハイラム・クラフス、最初の生徒

サーラ・バグリー、初期の生徒

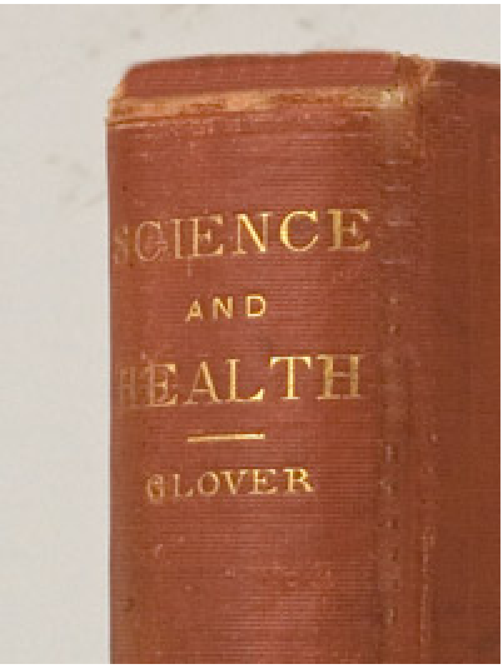
サリー・ウェントワース、初期の生徒

メリー・グローバーが、1870年の夏にリンに戻ってから、クラスは大きくなっていった。各クラスは少人数で、生徒たちは、12科目で構成された三週間のコースを受けた。これは、彼らが自分自身および他の人々を癒す準備となった。それから数年後に、彼女は、クラスを開くため、カレッジを設立する認可を受けることになる。

しかし、まず、この**科学**は教科書を必要としていた

教師： キリスト教科学の癒し

キリスト教科学の教科書：『科学と健康』、1875年



『科学と健康』第1版、1875年

1868年のこと 、ニューハンプシャー州マンチェスターのゲイルという夫人の担当医は、この夫人は肺炎で瀕死の状態であるとみなした。グローバー夫人を知っていた人々は、彼女に電報を打ち、ゲイル夫人を助けに大至急赴くように要請した。そこで彼女は出かけた。

彼女の祈りをこめた治療により患者は即座に癒された。これを見て、驚愕した医者は、グローバー夫人に、この**科学**を本にして出版し、「それを世界に与える」ように強く勧めた。

1872年の初頭までに、彼女は教えることを中止し、それから3年の間、**キリスト教科学**の教科書となるものを執筆し続けた。原稿の段階で初めは『生命の科学』という題であった。しかし出版されたときは『**科学**と健康』という題となった。後の版では『**科学**と健康－付聖書の鍵』と改められることになった。

教師： キリスト教科学の癒し

科学と健康』を執筆する

マサチューセッツ州リン、ブロード・ストリートのエディ夫人の自宅

『**科学**と健康』の執筆は、1872年から1875年までの3年間精力的に続いた。彼女は、聖書の注釈を広範囲にわたり書いている間に学んだこと、クラスで教えたときのメモ、また、癒しを通して証明したことを基にして、執筆し、原稿は増大していった。しかし、ほとんどは、ほとばしり出る霊感と洞察により日々ページが埋め尽くされていった。勢いよく流れ出る言葉は、ページを駆けめぐり、原稿用紙はしばしば彼女のひざからこぼれ落ち、周りの床の上へ撒き散らされた。

1873年の秋までに、彼女は、原稿をまとめ、ボストンのいくつかの出版社に出版を依頼したが、彼らは興味を示さなかった。そこで、彼女は自分で出版しなければならなくなった。

1875年に彼女はリンのブロード・ストリートにある家を購入した。そして、その家の小さな屋根裏部屋で重要な14ページを加えて、原稿を完成させた。この14ページは、最後の章「病人を癒す」に挿入された。その後、これらのページは、発展し、全く別の章、「動物磁気の仮面ははがされる」となった。

彼女は印刷業者を見つけたが、植字工の不手際がしばしばあり、それを校正し訂正するという骨の折れる仕事がはじまった。植字工は、自分が理解できない言葉は変更すると言い張ったのである。これはうんざりするような作業であったが、仕事は進んで行った。

この本は、1875年の後期に出版され、それから数ヶ月以内に、書店には、Christian Science Publishing Company（**キリスト教科学**出版社）の新刊、メリー・B・グローバー著『**科学**と健康』が並べられていた。

それから35年の間、彼女はこの教科書に何度も何度も手を加え、その内容を洗練させ明確にさせていった。このために、主な改訂を8回、有に400回を超える印刷を行なった。（平均して１回につき1000冊印刷したことになる。）

出版社は、一般の人々は決して興味を示すことはないであろうと予想したが、この本は、1875年の初版から今日に至るまで、世界各地で何百万人という読者を得ている。

教師： キリスト教科学の癒し

エディ夫妻、1877年

メリー・ベーカー・エディ、1876年頃

『**科学**と健康』の出版が近づくとともに、グローバー夫人は、マサチューセッツ州リンのブロード・ストリートに購入した自宅の応接間で、再び教えはじめた。今や生徒の中には、**キリスト教科学**運動の初期の確固たる働き手となる人々が含まれていた。ジュリア・バートレット、カルビン・フライ、そして1876年に加わったアサ・ギルバート・エディのような人々であった。

アサ・ギルバート・エディ、1860年代頃

ギルバート・エディ（友人たちにこの名で知られていた） は、**キリスト教科学**の癒しを実践するための事務所を開き、自らをキリスト教科学者として宣伝した最初の人となった。1877年1月に、ブロード・ストリートの自宅の応接間でギルバートと結婚し、『**科学**と健康』の著者は、メリー・ベーカー・エディとなった。

優しく、好感の持てる男性である夫は、彼女をしっかりと支え、彼女の著書を保護するために版権に関する法律を研究し、『**科学**と健康』の次の数版の発行者となた。1882年にエディ夫妻がボストンに引越してからしばらくして、ギルバートは死去し、彼女は再び一人で進んでいかなくてはならなくなった。

教師： キリスト教科学の癒し

講演をし説教をする、ボストン、1880年代

ボストンのチカリング・ホール、ここでエディ夫人は1880年代に説教をした。

講演や説教が、人々に述べ伝えるための主な手段であった時代にあって、エディ夫人は卓越した話し手であった。1870年代後期と1880年代に、リンとボストンにおいて、断続的に自宅で行なっていた談話は発展し、ますます大きなホールを借りて大勢の聴衆を前に行なう講演や説教になっていった。

彼女はシカゴの講堂で、会場からあふれんばかりの聴衆を前に講演を二度行なった、そして1889年にニューヨークのステインウェイ・ホールで1000人を超える聴衆を前に演説をした。

77歳になろうとしていた1898年に、彼女はニューハンプシャー州コンコードのクリスチャン・サイエンス・ホールで説教をしたが、ホールは人で一杯となり、新聞記者たち数人もつめかけていた

教師： キリスト教科学の癒し

マサチューセッツ・メタフィジカル・カレッジ

コロンバス・アベニュー569番地と571番地、メリー・ベーカー・エディのボストンでの自宅とマサチューセッツ・メタフィジカル・カレッジ

マサチューセッツ・メタフィジカル・カレッジは、1881年1月に認可された。最初のクラスはリンで開かれた。1882年にエディ夫妻はボストンへ引越し、カレッジはコロンバス・アベニュー569番地で再開された。エディ夫人は学長であり、事実上、唯一の教師であった。

キリスト教科学を教えることは、1867年に、一人の教師とたった一人の生徒のクラスで始まったが、エデイ夫婦が1882年にボストンに引っ越してからの7年の間に、生徒が増加し、何十人もの生徒のクラスを教えるまでになった。これらの生徒の多くは、**キリスト教科学**の教師になり、**キリスト教科学**のクラスはアメリカ各地で開かれた。また、生徒の多くは、実践士となった。このようにして**キリスト教科学**の実践はアメリカ各地で、またアメリカ以外の国でも行われるようになった。この成長の様子は、*Journal of Christian Science* （「ジャーナル・オブ・クリスチャン・サイエンス」）に掲載されたリストに記録されている。この雑誌はエディ夫人が1883年に創刊し、後に月刊誌*The Christian Science Journal*（「ザ・クリスチャン・サイエンス・ジャーナル」）と名前が変更された。

メリー・ベーカー・エディ、1880年代後期頃

1880年代の終わりには、米国中から何百人という人々が彼女のクラスに応募するようになった。1889年3月に、彼女は65人の生徒を教え、それまでで最大の初級クラスとなった。しかしその年の師範クラスは彼女がボストンで教えた最後のクラスとなった。クラスの終了後、彼女はボストンを離れた。それから数ヶ月後、カレッジを閉鎖した。彼女は、ニューハンプシャー州コンコードに落ち着き、差し迫っていた仕事に取りかかった。

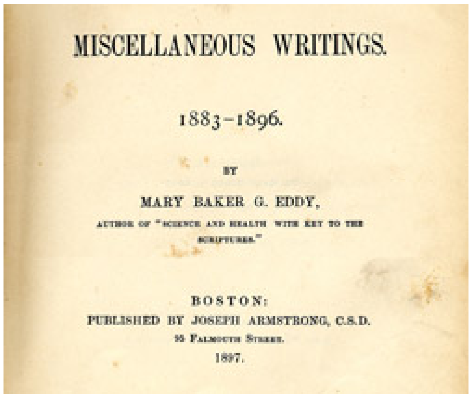
教師： キリスト教科学の癒し

彼女の教え方はソクラテス法ーすなわち、質疑応答形式ーである。彼女は、通常、「**神**とは何か」という質問でクラスをはじめた。ある生徒は、最初の３回の授業の終了後、彼女が生徒たちに「さあ、自宅に戻り、最初の患者を受け入れなさい」と言ったことを覚えていた。生徒たちは正にその通りに行い、癒したのだった。

マサチューセッツ・メタフィジカル・カレッジからカミラ・ハンナ夫人に授与された証明書

卒業後、初級クラスの生徒の多くは、**キリスト教科学**の癒しを公に実践し、名前の後にCS（クリスチャン・サイエンティスト）を付ける資格を与えられた。卒業生は、癒しを行なったことが証明されれば、師範クラスに入る資格を与えられた。それは教師となる準備のためのクラスであり、彼らはCSB（**キリスト教科学**学士）又はCSD（**キリスト教科学**博士）を名前の後に付ける資格が与えられた。彼らの多くは米国各地にクリスチャン・サイエンス・インスティチュートを開設し、それぞれ、自分の生徒たちに教えた。

しかし、彼らの教えは、時には自分たちが学んだことからそれることがあった。1896年に、メリー・ベーカー・エディは、それまでの10年余りの間に繰り返し行なったように、正確な教えについて熟考した。 彼女は、自分の記事、演説、選び出した手紙を一つの本、*Miscellaneous Writings, 1883-1896* （『散文集1883年~1896年』）として編集し出版し、この著作は彼女に従う人々が、彼女が教えたことを新たに思い出す役目を果たすと考えた。この文集が1897年に出版されたとき、彼女は教えることを一年間中止し、「聖書、『**科学**と健康ー付聖書の鍵』およびその他の私の出版物がこの時期の唯一の正式の教師である」と言明した。


MISCELLANEOUS WRITINGS.

1883–1896.

BY

MARY BAKER G. EDDY,

AUTHOR OF "SCIENCE AND HEALTH WITH KEY TO THE SCRIPTURES."

BOSTON:

PUBLISHED BY JOSEPH ARMSTRONG, C.S.D.

95 FALMOUTH STREET.

1897.

『散文集1883年~1896年』 第1版

1898年に、彼女は、すべての**キリスト教科学**の初級および師範クラスでの教育は、教会の教育院の管轄下に行なわれるものとすると規定した。

彼女は、1898年に、約70人の生徒を選び、最後のクラスとなった特別師範クラスに招集した。そして、彼女は、自分がこのクラスでなしたことは**キリスト教科学**の教育分野全体に影響をもたらしたと語った。

創始者・指導者：科学者キリスト教会

教会を設立する、リン、1879年

『教会規範』の中に書かれている、発見者、創始者、そして指導者という称号は、メリー・ベーカー・エディについてのみに使用されている。エディ夫人は、神性の導きを求めて、祈りにより、**キリスト教科学**運動と教会を創始した。

指導者として、彼女は、個人的に一対一で教え指導することにより、組織の規則により、生徒たちや自分に従う人々への手紙により、そして模範を示すことにより、導いていった

1879年頃のマサチューセッツ州リン、ブロード・ストリート8番地、ここでエディ夫人の教会は設立された。

1879年4月、マサチューセッツ州リンにおいて、かろうじて12名になった会員で構成されたクリスチャン・サイエンティスト・アソシエーション（キリスト教科学者協会）は、教会を設立することを投票により決議した。その目的について、エディ夫人は後に、「原始キリスト教と、その失われた癒しの要素を復帰させる」ことであると書いている。

彼女が最初に考えたことは、それをキリスト教会と名づけることであった。しかし、自分の教会と他の教会との区別を明確にするために、一つの言葉を括弧に入れて付け加えた、そして数ヵ月後にマサチューセッツ州は「（科学者）キリスト教会」の設立を認可した。

エディ夫人の教会を最終的に設立するのは、約15年後の1890年代まで待つことになる。

創始者・指導者：科学者キリスト教会

（科学者）キリスト教会を再編する、1890年代

ニューハンプシャー州コンコード、ノース・ステイト・ストリート62番地のエディ夫人の借家

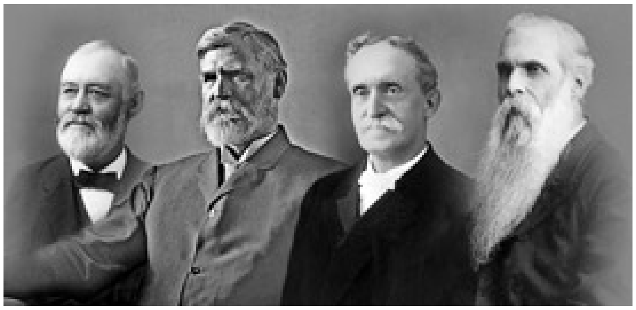
1889年にエディ夫人は、ボストンを去り、ニューハンプシャー州コンコードのノース・ステイ・ストリート62番地の借家に落ち着いた。彼女は、リンとボストンで20年間にわたり精力的に仕事をした後、絶え間なく自分の時間をとられる状態から一歩退き、他のすべきことにとりかかる時が来たと感じたのである。

まず、『**科学**と健康』を改訂する必要があった。

次に、彼女が設立した組織を刷新し改善することにより、自分の発見を保護することを考える必要があった。彼女は、それらを取り壊すことから始めた。第一に、彼女はボストンの教会の牧師職を辞任した。（彼女は、その後、名誉牧師と呼ばれるようになった。）

それから、生徒の組織、クリスチャン・サイエンティスト・アソシエーション（キリスト教科学者協会ー1876年創設）を解散し、マサチューセッツ・メタフィジカル・カレッジを閉鎖し、ナショナル・クリスチャン・サイエンティスト・アソシエーション（全国キリスト教科学者協会）に、年次総会を3年間休会するように指示した。そして、最終的に、ボストン市所在（科学者）キリスト教会の正式な組織を解いた。彼女の励ましのもと、教会は続いてゆき、日曜礼拝を行い、説教者を維持し、その他の会合を開いていた。

これらは、『**科学**と健康』の主な改訂を完成させる準備となった。この改訂版は1891年1月に発行された第50版である。これに引き続き彼女の生涯と仕事を記述した *Retrospection and Introspection* （『回顧と反省』）が出版された



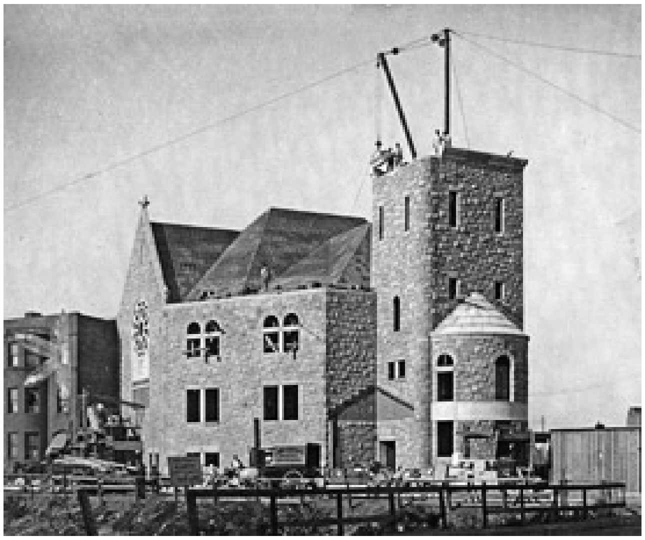
初代キリスト教科学理事：左から右へ、スティーブン・A・チェイス、ジョゼフ・アームストロング、ウィリアム・B・ジョンソン、アイラ・O・ナップ

1892年に、エディ夫人は教会の再編に取り掛かった。彼女は、信託証書に署名し、教会建物を建設することと教会運営を行なうこととを目的とする**キリスト教科学**理事会を「永久団体、すなわち法人」として新設した。

彼女の指導のもと、この理事会は日々の活動の責任を担い、教会は母教会、マサチューセッツ州ボストン市所在、第一科学者キリスト教会として再編された。世界に広がる各地の教会は、母教会の支教会とされた。今日、支教会は世界各地に存在している。

創始者・指導者：科学者キリスト教会

母教会の建物、1894年



建設中の母教会、1894年

ボストン市所在母教会の建物の建設は、多くの障害に出会い、何度も遅延された。そして終に、1894年5月21日に、指導者の指示により、**キリスト教科学**理事会は、静かな定礎式にて隅の礎石を据えた。

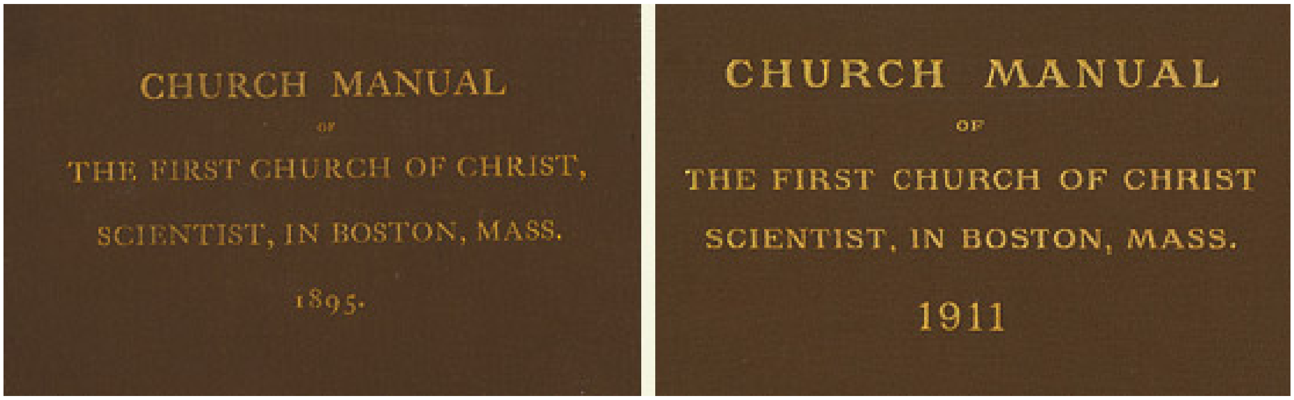
それからちょうど7ヵ月後の12月最後の日曜日に、新しい建物で第一回目の礼拝が行なわれた。この建物は、後に「旧館」として知られるようになる。

リンのエディ夫人の応接間で始まった教会は、今や1000人の礼拝参加者のための座席を必要とするまでになっていた。

第一科学者キリスト教会の教会規範、1895年

1895年に、教会の建物が完成した後、彼女は『第一科学者キリスト教会の教会規範』（即ち、『母教会の規範』）を出版し、教会会員のための管理規則や行動基準を記した。

彼女はこの『規範』を必要に応じて改訂し、刷新し続けた。最終的に完成した『教会規範』はエディ夫人に承認され、1910年12月17日に第89版として出版された。



『母教会の規範』、第1版；第89版

創始者・指導者：科学者キリスト教会

キリスト教科学の牧師

ボストン市所在母教会の2人の朗読者用デスクが設置されている壇上

1879年に、リンの小さなグループは、エディ夫人に彼らの牧師になるように要請した。彼女は、初めにリンで、その後ボストンで、その任務に就いた。10年後、会衆の増大に伴い、牧師の職を退き、ボストンを去った。しばらくの間、彼女以外の人々が教会で説教をした。

1894年と1895年に、彼女は、世界中の科学者キリスト教会における個人的な説教の時代を

終わらせた。1895年に『教会規範』で、彼女は聖書と『**科学**と健康ー付聖書の鍵』を母教会及びその支教会の牧師に任命した。

それ以降、**キリスト教科学**教会の会衆は、極めて違った形の説教を聞くことになる。二人の平信徒が聖書と『**科学**と健康ー付聖書の鍵』からの引用文を朗読する形式である。この2冊の本からの引用文が、26の主題に基づく聖書教課を構成している。この26の主題は、エディ夫人が長期にわたり熟考し、編纂したものである。この聖書教課は、季刊として出版され、何万人というキリスト教科学者が一週間を通して勉強している

1898年に達成したこと

77歳になっていた1898年の終わりに、エディ夫人はある生徒に、次のように書いた。「今年、私は昼夜を問わず絶え間なく働いた。それは、私たちの教会が前進する道を切り開くためであり、教会の諸活動を系統だった秩序に基づいた活動にするためである」。彼女は、正に、その通りにした。彼女が成したことは、今日まで持続している教会の組織体系を確立させることであった。

メリー・ベーカー・エディ、1898年頃

創始者・指導者：科学者キリスト教会

エディ夫人が**1898**年に達成したこと

キリスト教科学出版協会1900年頃

- **キリスト教科学講演部**、**キリスト教科学**を一般に紹介するために設立。
- **キリスト教科学出版協会**、信託証書により設立。
- **キリスト教科学教育院**、**キリスト教科学**の教師を公認するために設立。
- **毎週の聖書教課のための26の主題**、開始。
- **公に開かれた集会**、この**キリスト教科学**の癒しの証を分かちあう集会を、金曜日から水曜日の夕方に 変更。
- **詩篇91篇についての説教**、ニューハンプシャー州コンコードの満席のクリスチャン・サイエンス・ホールにてなされた。
- ***Christian Science Sentinel*** （**「クリスチャン・サイエンス・センティネル」**）[当初 *Christian Science Weekly*（「クリスチャン・サイエンス・ウィークリー」）と呼ばれていた]、初めて出版された。

ニューハンプシャー州コンコードのクリスチャン・サイエンス・ホールの内部、

- *ここで、エディ夫人の最後のクラスが開かれた。*
- **エディ夫人が教えた最後のクラス**、およそ70名の生徒を招待して、コンコードのクリスチャン・サイエンス・ホールにて開かれた。
- **キリスト教科学渉外部**、この宗教と指導者について報道された報道機関の誤りを訂正するために設立された。
- ***"Christmas Hymn"*** （**「クリスマスの賛美歌」**）（詩「クリスマスの朝…」）、出版された。

創始者・指導者：科学者キリスト教会

20世紀へ向けて：母教会新館、1906年

母教会新館献堂式に集まった大勢の人、1906年

世紀の変わり目、母教会建設後たった8年しか経っていないにもかかわらず、各日曜日に行われた3回の礼拝でも会衆を収容し切れなかった。1902年に、年次総会に集ったキリスト教科学者たちは、教会の大きな「新館」を建設するための募金を募る誓約をした。

1906年に、母教会新館で最初の礼拝が行なわれた。新館のドームは旧館より高くそびえていた。このドームの下にある長椅子には、5000人の会衆を収容することができた。

新世紀における教会のみごとな成長のなかで、エディ夫人は数を誇ることに対して警告を発した。彼女は、母教会とその支教会が、会衆数を公表することを禁じた。

著名人、プライバシーを守る生活

大変な著名人

エディ夫人の馬車、1909年頃、御者席、左から右へ、フランク・バウマン、カルビン・フライ、馬車の中、左から右へ、ローラ・サージェント、エディ夫人

ボウのベーカー農場出身のメリー・ベーカーは、1900年までに、新聞で大きくとりあげられ、たたえられる有名なメリー・ベーカー・エディとなった。新聞や雑誌は、ありとあらゆる問題について彼女の見解を求めた。彼女のすべての動きがニュースとなった。

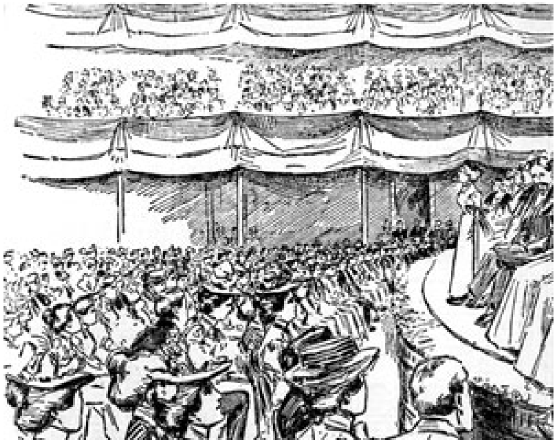
時折、彼女はあえて公に出て、キリスト教科学者たちに声明を出し、一般の新聞や雑誌に投稿し、少数ではあったが、一流でよく知られていたジャーナリストたちのインタビューを受けた。また、コンコードそして後にはチェスナット・ヒルで、毎日馬車で遠乗りをしている彼女の姿が見られ、彼女は世間に大いに知られるようになった。

しかし、彼女は人々が彼女の人格に焦点を当てることを退けた。インタビューをしたあるジャーナリストは、「彼女は、個人的な追従を思い留めさせ、… 彼女の教えを受け入れる人々の考えを、宗派の創始者にではなく信仰へ向けさせたいと説明した」と報告している。

彼女が、自分に従う人々に対して、特に注意していたことは、彼女をあがめるのではなく、**神**を信頼するようにさせることであった。彼女は「再び繰り返して言う、あなたの指導者が**キリスト**に従うのと同じ従い方によってのみ、あなたの指導者に従いなさい」と指示した。

著名人、プライバシーを守る生活

エディ夫人、公に姿を見せる



新聞の挿絵：エディ夫人、マサチューセッツ州ボストンのトレモント・テンプルにて聴衆に向かって演説をする。

1870年代の終わりから1880年代全体にかけて、彼女は、リンやボストンで、ますます大きくなってゆく聴衆に対して講演と説教をし、シカゴやニューヨークのステインウェイ・ホールでさえ語った。

1889年に公から退き、ニューハンプシャー州のコンコードへ移った後でさえ、彼女は時折ボストンに戻り、自分に従う人々に声明を出した。そして彼女はキリスト教科学者たちを、彼女のコンコードの自宅、プレザント・ビューに迎え入れた。

1898年、集中的な仕事をしていた最中に、彼女は時間を割き、ニューハンプシャー州コンコードのクリスチャン・サイエンス・ホールで満員のキリスト教科学者たちに詩篇91篇についての説教をした。聴衆のなかの報道関係者たちは、この大きな集会で語った彼女の能力のすばらしさを認めた。

エディ夫人、プレザント・ビューを訪れた何千人にというキリスト教科学者に向かって演説をする。1903年6月

翌年、彼女は教会の年次総会で演説したが、聴衆があふれ出るほど多かったため、この総会は、ボストンの厳粛なトレモント・テンプルで行なわれた。

1900年と1901年、馬車で彼女の家の近くのニューハンプシャー州博覧会会場に出かけたとき、彼女は博覧会に来ていた何千人という人々から歓迎を受けた。

2年後の1903年6月、彼女は年次総会に出席していたキリスト教科学者たちをプレザント・ビューに招待した。新聞記事によると、およそ１万人の人々が彼女の家の門前に集まり、彼女に挨拶し、彼女から短い言葉をかけてもらっていたということである。

著名人、プライバシーを守る生活

プライバシーを堅く守る生活

プレザント・ビュー、1903年

時折、公に姿を出してはいたが、**キリスト教科学**の指導者は、はじめはニューハンプシャー州のコンコードで、それからマサチューセッツ州のチェスナット・ヒルの自宅で、世間の注目を避けて過ごし、ますますプライバシーを守る生活をしていた。

1891年に、コンコードの下町の借家で２年間過ごした後、エディ夫人は、プライバシー、平安、そして静かさを求めていた。彼女は、捜し求めていた家を、同じ市のはずれのプレザント・ストリートにある農場に見つけた。それは、今までより閑静な家であった。彼女はその家を購入し、改造し、自分と増えてゆくスタッフが住めるようにし、プレザント・ビューと名づけた。1892年6月に、彼女は入居した。その後ここで、多くの出来事に満ちた15年間を過ごした。

プレザント・ビューのエディ夫人の書斎

この家の中心は、彼女の私的な空間である書斎であった。あるスタッフはこの部屋を彼女の「仕事部屋」と呼んでいた。彼女は、一週間のうち7日間、自分の時間を捧げ、その部屋で**キリスト教科学**運動のために祈り、働いた。

プレザント・ビューで撮られたスナップ写真には、彼女がゆったりとした安楽椅子にすわり、参考文献、進行中の仕事、ペン、インク、ペン立てが山積みになっている机の横で執筆に集中している姿が写っている。そして、彼女の背後には原稿や他の紙類で一杯の本箱がある。

著名人、プライバシーを守る生活

メリー・ベーカー・エディの日常生活

プレザント・ビューの日没、ジェイムス・F・ギルマンによる絵画

彼女は、「私は、神とのみすごす、静かな、キリスト者としての生活を望む」と語った。そのために、プレザント・ビューでの彼女の日々は時計仕掛けのように規則正しかった。夜明けからたそがれ時まで、一分一分を規則正しく配分し、祈りの時間がとれるようにした。彼女にとり、祈りは、使命を維持して行くために必要不可欠であった。

彼女は午前6時に、祈りとともに目覚めた。8時までには、机に向かっていた。導きを求めて祈ったあとに、いつも、聖書を開き、目に触れた最初の聖句を読んだ、それからしばらくの間、その聖句について考え祈った。

彼女は、一階の応接間や食堂や図書室を見て回るのを楽しんでいた。時には台所に行き、メニューやレシピについて話した。９時半までには、書斎に戻り、朝の仕事に向かった。

夏と冬は、午前11時ちょうどに、仕事を離れ、裏手のベランダに行き1時間一人で「神に語りかけた」と、彼女はスタフたちに語った。彼女とスタフの主要な食事であった昼食は厳密に正午ちょうどであった。

プレザント・ビューの裏手、2階にあるエディ夫人の書斎の窓のある塔とベランダ

日課であった馬車による遠乗りは、午後1時であり、それは彼女にとって更に熟考する時間であった。彼女は、あるスタフに、「馬車も、熱心な祈りの場であることが多かった」と語った。

２時までに、彼女は机に戻った。教会の役員、顧問、ジャーナリストやその他の人々との約束がない限り、カルビン・フライか秘書の一人が午後の郵便を届けることになっていた。彼女は、時折訪問する生徒や旧友たちとの会合を楽しんでいた。スタフは、彼女が良い話を聞いたり、話したりすることをとても楽しんでいたと語った。そしてめったにない子供たちの訪問を喜んだ。5時に、エディ夫人

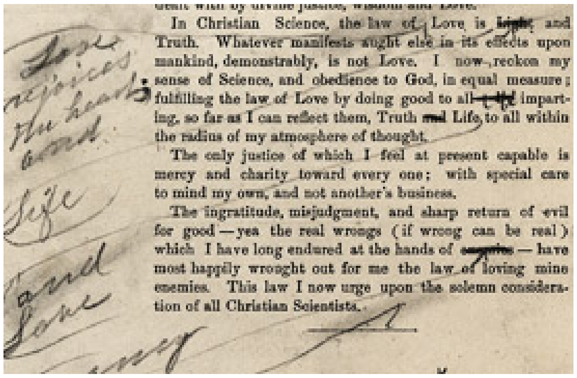
は軽い夕食をとった。それは簡素なニューイングランドの食事であり、スープ、レバーやひなバトなどの肉類、魚、クリームをのせたトーストまたはシリアル、そして彼女の大好物の自家製アイスクリームやカスタードプッディングなどのデザートであった。

プレザント・ビューのエディ夫人の寝室

夕食後、エディ夫人もスタフも、本や雑誌や新聞を読んだり、おしゃべりをしたりしてくつろいだ。スタフのなかには、写真や天文学を楽しんでいる者もいた。時々、みなで気に入った古い歌や賛美歌を歌った。どんなに忙しくても、ほとんどの日は、心地よく穏やかに閉じられた。

通常、9時半までに、彼女は床についた。常に『**科学**と健康』とメモ用紙と鉛筆が、手が届くベッドの横のテーブルに置かれていた。就寝時間が過ぎても、問題があると、起きてそれに対処した。時には、彼女は床についてから、人々を集め、当座の問題を処理するように指示した。教会関係の特別の要求に応えるために、彼女が夜遅くまで働いていたことはよく知られている。

著者執筆する



In Christian Science, the law of Love is light; and Truth. Whatever manifests aught else in its effects upon mankind, demonstrably, is not Love. I now reckon my sense of Science, and obedience to God, in equal measure; fulfilling the law of Love by doing good to all the imparting, so far as I can reflect them, Truth and Life, to all within the radius of my atmosphere of thought.

The only justice of which I feel at present capable is mercy and charity toward every one; with special care to mind my own, and not another's business.

The ingratitude, misjudgment, and sharp return of evil for good — yea the real wrongs (if wrong can be real) which I have long endured at the hands of enemies — have most happily wrought out for me the law of loving mine enemies. This law I now urge upon the solemn consideration of all Christian Scientists.

印刷会社の校正用紙、エディ夫人による修正入り

メリー・ベーカー・エディは、数多く執筆した。1866年に**キリスト教科学**を発見する前に何年間も出版物に寄稿していた。1866年以降、彼女から言葉がほとばしり出た。数多くの記事、説教、詩、小冊子、そして本を執筆した。そして、注目すべきことは、**キリスト教科学**の癒しについての教科書、『**科学**と健康ー付聖書の鍵』を繰り返し改訂していることである。また、おびただしい量の手紙を書いた。

彼女は秘書に口述するか、又は膝の上のパット状の用紙に鉛筆かペンで精力的にすばやく書いた。あるスタフによると、彼女は「初めから終わりまで、何度も消しては書き、消しては書き、行間に書き加えて」、原稿に手を入れ、書き直していたということである。

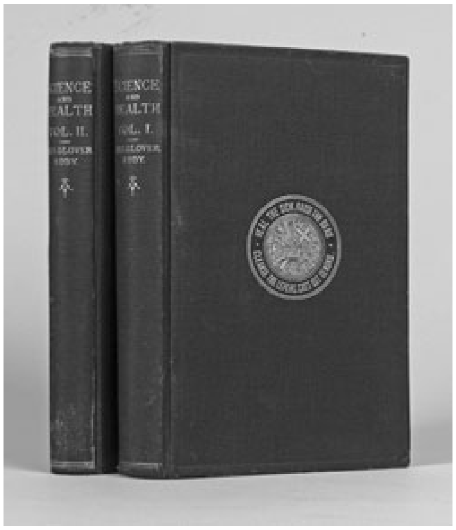
自分自身が執筆したものの著者となった上に、彼女は出版社を設立し、週刊及び月刊の**キリスト教科学**の雑誌および受賞した国際日刊新聞 *The Christian Science Monitor* (「ザ・クリスチャン・サイエンス・モニター紙」)を創刊した。

著名人、プライバシーを守る生活

出版された主要な著書と刊行物

1870年、*"The Soul's Enquiries of Man"*（『魂から人への問い』）及び、最初のクラスの生徒の勉強用にエディ夫人が手書きで書き、それをコピーさせせた無題の解説書。

1870年、*"The Science of Man, By Which the Sick are Healed"*（『人についての科学、これにより病人は癒される』）。彼女は又1867年に、教えたときに用いた質疑応答形式で教本を書いた。これは、1870年に彼女が初めて版権を取った**キリスト教科学**についての著書となった。1881年に、この著書は彼女によって大きく改訂され、『**科学**と健康－付聖書の鍵』の「要約」という章になった。今日までこの章は**キリスト教科学**のクラスでの教材として用いられている。



2冊で構成されている『科学と健康』第3版

1875年、『科学と健康』、これは、後に**『科学と健康－付聖書の鍵』**と改題された。**キリスト教科学**の教科書となる原稿は、初め『生命の科学』（*The Science of Life*）という題であった。『**科学**と健康』と改題された第1版は、1875年10月に出版された。新刷毎に平均して1000部印刷された。著者の理解が深まるたびにこの本は書き変えられ、この本は、絶え間なく手が加えられていった。ある版では小さな変更しかなかった。1891年に出版された第50版のように、時には、大きな改訂があった。1902年１月に出版された『**科学**と健康』の226版で、この本は、今日の読者に知られている形になった。各章の順番は決まり、簡単に照会できるように各行の欄外に行数が入れられた。最終章「結実」が加えられた。ここには、この本を読んで癒された人々の証言が100ページにわたり掲載されている。10年目の終わりに近づいた1910年10月に、エディ夫人の指揮のもと更なる改訂が行なわれ、1911年１月に出版された版に、その改訂部分が入れられた。最初に出版されてから今日に至るまで、『**科学**と健康』は英語の他、約15ヶ国語で何百万冊にわたり出版されている。

1880年、*Christian Healing*（「キリストによる癒し」）。当初、1880年4月に行われた説教であった。

1883年、*The People's God: Its Effect on Health and Christianity*（「人々の神：それが健康とキリスト教に及ぼす影響」）。当初、この3年前に行われた説教であった。後に、題を改め、*The People's Idea of God: Its effect on Health and Christianity*（「**神**についての人々の考え：それが健康とキリスト教に及ぼす影響」）とした。

1887年、*RUDIMENTS AND RULES OF DIVINE SCIENCE*（『神性科学の基本と規則』）。後に、*Rudimental Divine Science*（『神性科学の基本』）と改題された。

1887年、*CHRISTIAN SCIENCE: NO AND YES*（『キリスト教科学：否定と肯定』）。初期の作品を改訂し、内容を広げ、1885年3月に、*Defence of Christian Science*（『キリスト教科学の擁護』）として出版。1891年に彼女はこの作品を再度改訂し、短い題、*No and Yes*（『否定と肯定』）とした。

1888年、*UNITY OF GOOD AND UNREALITY OF EVIL* (『善の一致と悪の非実在性』)。後に改題し、*Unity of Good* (『善の一致』)とした。

1891年、*Retrospection and Introspection*（『回顧と反省』）。エディ夫人は自分の生涯と仕事の意義と重要な点についてこの薄い本にまとめた。自伝でもあり、教えでもある。

1893年、*Christ and Christmas*（『キリストとクリスマス』）。この挿絵入りエディ夫人の詩は、「エディ夫人と画家、ジェイムス・F・ギルマン」によると記され、1893年12月に出版された。翌年の1月に彼女はその販売を中止し、少々変更し1897年に再販した。

1895年、『マサチューセッツ州ボストン市所在、第一科学者キリスト教会の教会規範』。『教会規範』の第1版は、「異なった時期に、必要に応じて書かれ」、1895年9月に出版された。それは、教会建物が建設されてから9ヶ月後のことであった。1910年11月に、『規範』の最終改訂（第89版）がエディ夫人により承認され、1910年12月17日に出版された。

1897年、*Miscellaneous Writings 1883–1896*（『散文集1883年～1896年』)。エディ夫人の記事、声明、選ばれた手紙によって構成された文集は、1896年に彼女によって収集、編集され、1897年2月に出版された。

1898年、*Christian Science vs. Pantheism*（「キリスト教科学対汎神論」）。聖餐式の礼拝のためのエディ夫人から教会への声明。

1900年、*Message to the Mother Church for 1900*（「母教会への声明 1900年」）。1900年6月3日に行われた聖餐式の礼拝のためのエディ夫人から教会への声明。

1901年、*Message to the Mother Church for 1901*（「母教会への声明1901年」）。1901年6月23日に行われた聖餐式の礼拝のためのエディ夫人から教会への声明。

1902年、*Message to the Mother Church for 1902*（「母教会への声明1902年」）。1902年6月15日に行われた聖餐式の礼拝のためのエディ夫人から教会への声明。

1910年、*Poems*（「詩」）。1910年、エディ夫人は書籍として出版するために自分の詩を選び、編纂した。この書籍はその年の11月に印刷された。

1913年、*The First Church of Christ, Scientist, and Miscellany*（『第一科学者キリスト教会と雑文集』）。1906年に、エディ夫人は、彼女の著作、手紙、母教会新館についてのニュース報道などを集めた文集の題を、*The First Church of Christ, Scientist, and Miscellany*（『第一科学者キリスト教会と雑文集』）とする版権を所有した。1909年8月に、彼女はこの草稿を入れたファイルを見直し、それから、それをしまい、自分の死後に出版するように指示した。4年後の1913年11月、著者の死後に*The First Church of Christ, Scientist, and Miscellany*（『第一科学者キリスト教会と雑文集』）は出版された。

刊行物

1883年、*The Christian Science Journal*（「ザ・クリスチャン・サイエンス・ジャーナル」）。この月刊誌は、最初は、***The Journal of Christian Science*（「ザ・ジャーナル・オブ・クリスチャン・サイエンス」**）と呼ばれて、1883年4月から隔月で発行された。1年目は、エディ夫人は編集者でもあり、記事や詩の主要な寄稿者でもあった。

1890年、「キリスト教科学クォータリー」。聖書と『**科学**と健康』からの引用で構成され、それが各週の聖書教課になっている。26の主題は1898年にエディ夫人によって編纂された。

1898年、*Christian Science Sentinel*（「クリスチャン・サイエンス・センティネル」）。**キリスト教科学**運動はますます大きくなっていた。エディ夫人は、この週刊誌を通して、月刊の「ジャーナル」より頻繁に、**キリスト教科学**運動関係者と連絡を取ることができるようになった。最初は1898年9月に*The Christian Science Weekly*（「ザ・クリスチャン・サイエンス・ウィークリー」）として発行された。数ヵ月後に、彼女は、*Christian Science Sentinel*（「クリスチャン・サイエンス・センティネル」）と名称を変更し、その標語を「目をさましなさい。わたしがあなたがたに言うこの言葉は、すべての人々に言うのである。イエス」（マルコ 13:37）とした。

1903年 、*Der Christian Science Herold*（「デア・クリスチャン・サイエンス・ヘロルド」）。このドイツ語の雑誌が、はじめて出版された。これは、フランス語や他の言語による「さきがけ」を先行するものであった。

1908年、*The Christian Science Monitor*（「ザ・クリスチャン・サイエンス・モニター紙」）。1908年8月8日に、エディ夫人は、**キリスト教科学**出版協会の評議委員へ 日刊新聞を開始するよう指示した。彼女はそれを、*The Christian Science Monitor*（「ザ・クリスチャン・サイエンス・モニター紙」）と名付けた。4ヶ月もたたない11月25日に、第一号が販売された。それから100年以上後に、この日刊紙は、ピューリツァー賞を含む多くの賞を得ている。

著名人、プライバシーを守る生活

家族について

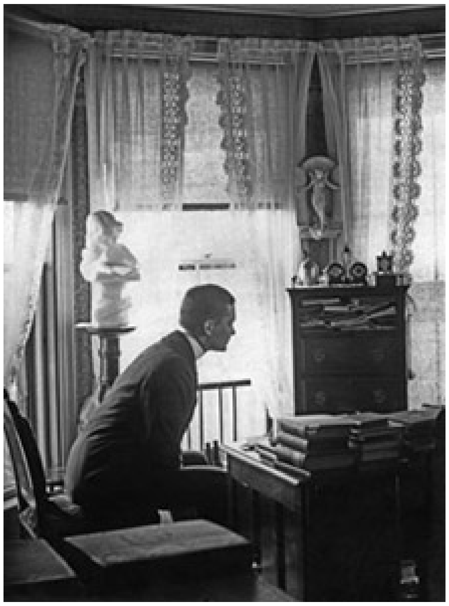
チェスナット・ヒルでエディ夫人の仕事の補佐をする家族のようなスタッフ、1908年：左から右へ、A・ペック、A・マクレラン（スタッフではなく訪問者）、E・ケリー、I・トムリンソン、N・エベレス、K・レテラー、A・H・ディッキイ、J・アービング、F・サッチャー、A・スティル、M・マクドナルド、M・スコット、A・スティーヴンソン

彼女の自宅や本部には、秘書、形而上学的に祈る係、料理人、家政婦、そして庭や厩舎の世話をする係など、家族のように彼女を補佐していた少人数のスタッフがいた。

ボストン、コンコード、そしてチェスナット・ヒルでの何年もの間に、100人以上の人々がそれぞれ違った時期に彼女の家で働いた。彼女は、忠実に補佐した人々に感謝し、次のように書いた。「世界は、この幸せなキリスト教科学者のグループゆえにより良くなる。エディ夫人は彼らゆえに更に幸せである。**神**は、平安と愛と喜びを表わす**神**の反映によってたたえられる」。

仕事の補佐をする「家族」のようなスタッフ

エディ夫人の書斎でのジョン・ラスロップ



仕事の補佐をしたスタッフは、口述を書き取ったり、馬車の御者をしたり、食事の世話をしたり、敷物の掃除をしたり、鉛筆を削ったりすること以上のことをしていた。指導者は数多くのことを行ったが、それに伴い襲ってくる嵐や苦闘と戦わなくてはならなかった。そのような時、彼らは、しっかりと形而上学的に揺らぐことなく、指導者の指示に従い、目を覚まして油断なく祈った。彼女は雇う係りに、負けずに抵抗できる人を見つけなさいと指示した。

仕事の補佐をしたスタッフは雇われていたが、彼らは彼女を「お母さま」と呼んだ。それに対して、彼女は彼らを「家族」とみなし、彼らを励まし、指導し、教え、時にはさとした。1903年に『教会規範』で、彼女は

自分に従う人々に自分を母と呼ばないように指示し、この呼び方を承認しなかった。そしてこの呼び方は報道界から嘲笑された。しかし、彼女にとても親しい何人かは、純粋に彼女に対する愛情から「お母さま」と呼び続けた。

エディ夫人は親切で、思慮深く、思いやりがあり、時には快活で、すべてのスタフに深い関心を寄せていた。彼女は又勤勉で、熱心で、時間厳守で、大変几帳面で、霊感にあふれ、**キリスト教科学**運動に挑戦することに対しては何であれ常に警戒を怠らなかった。彼女は自分に強く要求したように、スタフにも、**キリスト教科学**の癒しを最高の基準で実践して生活するように強く要求した。その当時の情勢について 形而上学的にすべきことを、きちんとしていない場合、彼女はスタフを厳しくさとした。

最もよく知られているスタフは、**カルビン・A・フライ**である。彼はマサチューセッツ州ロウウェル出身の機械熟練工であり、1882年にエディ夫人の元を訪れた。28年後の1910年に、カルビンはまだなお彼女の主な補佐役として仕えていた。この期間中休みを1日たりともとったことがなかった。

長い年月の間に百人余りの人々が働いたが、よく知られている人々は、ローラ・サージェント、クララ・シャノン、ジョゼフ・マン、ジョン・ラスロップである。また後年になって仕えた人々の中には、アデレイド・スティル、アダム・ディッキイ、アーヴィング・トムリンソンなどがいるが、彼らは、秘書、メイド、庭師、また家事の手伝い、そして形而上学的祈りの仕事をした。

ベーカー家。実の家族であるベーカー家のほとんどの人は、有名な親戚が創始した宗教には関心を持たず、1870年代以降、ほとんど彼女とかかわりを持つことはなかった。・

ジョージ・グローバー、ジュニア。彼女の息子、ジョージ・グローバー、ジュニアは、母親の意志に反し、ほとんど里親のチェニー家で育てられたが、彼らは、彼に教育をほどこすことをしなかった。西部の辺境地帯で育ち、正式の教育を受けなかったために、ジョージは、読み書きが出来なかった。彼は、結婚し色々な採鉱や採鉱見込みを調べる冒険的な仕事に従事した。2-3回、自分の家族を連れて東海岸を訪れ、母親を訪問した。母親は、彼と家族のために、サウス・ダコタのリードに立派な家を建てるという大きな贈り物をした。

エベニーザ・フォスター・エディ。1888年にエディ夫人は、有望と思われた生徒で、以前医師であった、エベニーザ・フォスターを、法律に基づいた養子縁組により、息子とした。そして、彼に教会の重要な責任ある仕事を与え、愛情を込めて「ベニー」と呼んだ。しかし、この関係はうまくゆかなかった。1897年以降彼らは事実上何の接触もしなくなった。そして、エディ夫人の生涯の最後の10年間、彼は、「近友」訴訟で彼女に敵対する立場をとった。

著名人、プライバシーを守る生活

攻撃の下に

エディ夫人が**キリスト教科学**運動を指導してゆく歴史を通して、彼女は、繰り返して、聖職者、法曹界、医学界、報道界での敵対者からの攻撃の的であった。彼らは、彼女の信用を落とすことにより、その教えの信用を落とし、彼女を引きおろそうとした。何度も何度も、彼女は、病気であるとか、無能力であるとか、死にそうであるとか、死んだとかいう誤った報道がされた。

彼女に対する敵意や悪意は、時には彼女の健康を害した。そのようなとき、仕事の補佐をしていたスタフの何人かは、彼女のために祈る任務につかされた。彼らの祈りと彼女自身の形而上学的な祈りが効果的であったことは、彼女が81歳になった時に述べた次のことばで証明されている。「私が戦いで傷つけられていることは事実である、それでも私は生き、**神**から恵みを受け、かつ、敵を阻止するような指示を出している」。

著名人、プライバシーを守る生活

酷評家、敵対者、意見を異にした仲間

当初から激しい非難とあざけりがメリー・ベーカー・エディと**キリスト教科学**に対して浴びせられた。彼女の教えは、宗教、医学、科学についての既存の考え方に挑戦するものであった。これらの社会や学界の人々のなかに、彼女とその教えをす早く公然と非難した人々がいた。特に注目すべきは、マーク・トウェーンであるが、何人かの作家たちは、事実を大いにゆがめた伝記、パロディを書き、彼女を徹底的に攻撃した。一方で、数人の牧師、医者、自然科学者たちは、彼女の教えとその効力を詳細に研究し、自分の職業を離れ、**キリスト教科学**運動に入り、卓越した働き手となった。

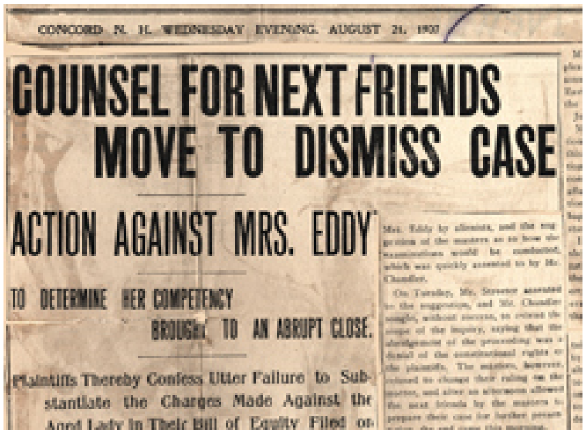
意見を異にした生徒たち。最もめんどうな敵対者は、離反していった者たちであった。彼らは彼女を運動の指導者の地位から引き降ろそうと、自分勝手な行動をとった。離反したグループは、何度か、予告なしに組織を離れた。何人かは新聞や雑誌で彼女に反発し、一般の人々が彼女や**キリスト教科学**に反対するようにし向けた。

ウッドベリー訴訟、1899年～1901年。1899年6月に、エディ夫人は聖餐の日曜日に教会へ声明を送った。この声明の内容は、牧師が教会に伝えるようなものであった。いくつかの事柄について触れていたが、そのなかで、罪について、黙示録にある「バビロンの女」を引用して強い言葉で述べた。

以前生徒であったが離反したジョセフィン・C・ウッドベリーは、この言葉は自分を標的としたものであると主張した。1ヵ月後、彼女は名誉毀損訴訟をエディ夫人に対して起こした。弁護士、フレドリック・ピーボディがウッドベリーの弁護をした。彼は、自分の生涯の大きな部分を費やして、**キリスト教科学**とその指導者を攻撃し続けた。ピーボディは、記事を出版し、講演をし、エディ夫人に敵意を持つ伝記作家たちにゆがめられた見解や誤った情報を提供した。

この訴訟は、エディ夫人に極度の迫害と苦悩の時をもたらした。2年間にわたりウッドベリーは、新聞に働きかけ、エディ夫人に敵対する記事を掲載させた。しかし、終に、1901年、訴訟は裁判にかけられ、即決で、エディ夫人に有利な裁決が降りた。

「近友」訴訟、1907年。1907年3月に、以前ニューハンプシャー州の上院議員であった弁護士、ウィリアム・チャンドラーが、エディ夫人の息子およびメリー・ベーカー・グローバー（孫娘）やジョージ・W・ベーカー（甥）など「近友」と呼ばれる人々の弁護人として、訴訟を起こした。チャンドラーの法廷弁護士、フレドリック・ピーボディは、ウッドベリー夫人の弁護をした弁護士であった。


CONCORD N. H. WEDNESDAY EVENING, AUGUST 21, 1907

COUNSEL FOR NEXT FRIENDS MOVE TO DISMISS CASE

ACTION AGAINST MRS. EDDY

TO DETERMINE HER COMPETENCY BROUGHT TO AN ABRUPT CLOSE.

Plaintiffs Thereby Confess Utter Failure to Substantiate the Charges Made Against the Aged Lady in Their Bill of Equity Filed or-

いわゆる「近友」訴訟の明確な目的は、85歳のエディ夫人は自分の日常生活や事業や収入をきちんと管理することが出来ないと主張することであった。原告は、彼女のスタッフは彼女をあやつり、その財産を管理しようとしていると主張した。もし、この訴訟が成功していたなら、エディ夫人は自分の土地やスタッフや活動について判断を下す権利を奪われ、効果的に、**キリスト教科学**運動の指導者としての地位に終止符が打たれ、彼女の教えの信用性は失われていたであろう。

この訴訟費用は当初は、ピュリツアー所有の*New York World*（「ニューヨーク・ワールド紙」）が支払った。この新聞は、この6ヶ月前にエディ夫人は重病であり、事業の運営に適さず、彼女のスタッフたちによって管理されていると主張する長い扇動的な記事を掲載した。

エディ夫人の適正能力を確認するために、チェインバリン判事は、判事、ニューハンプシャー州弁護士、および精神異常関係の専門医の3人で構成された委員会を任命した。双方の弁護士で成る裁判所が任命した委員会は、エディ夫人の自宅、プレザント・ビューで、エディ夫人と会見した。彼らは、彼女は自分で自分を管理する完全な適正能力があることを認めた。

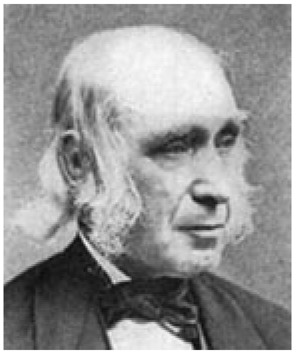
原告側の弁護士は、どうしても勝つことができないことを認識し、5~6日後に、評決が下されるのを待たずに、訴訟を取り下げた。アメリカ中でそして海外でさえも非常に多くの新聞が、この訴訟は宗教的迫害以外の何ものでもないとして、訴訟の不当さを記事や社説で認め、メリー・ベーカー・エディの不屈の精神、優雅さ、優しさ、そして精神の鋭敏さを賞賛した。

ステットソンの挑戦。エディ夫人の生徒、オーガスタ・ステットソンは、ニューヨーク市第一科学者キリスト教会を設立する助けをした。1900年代の初めのほとんど10年間を費やして、彼女は、この支教会を築き上げ、それを基礎にして、自分が**キリスト教科学**運動の指導者として、エディ夫人の後継者になろうと企てていた。1909年の終わりの頃に、彼女は母教会の会員名簿から除名された。1910年のはじめまでに、エディ夫人の時機を得た介入により、教会組織を脅かしていた亀裂は癒された。

聖職界と報道界の支援者たち

ウィリアム・ランドルフ・ハーストとその息子

聖職界と報道界のすべての人々が、エディ夫人につきまとっていた「エディたたき」に参加していたわけではなかった。例えば、ウィリアム・ランドルフ・ハーストの新聞は、これに全く加わらなかった。それには個人的な理由があった。



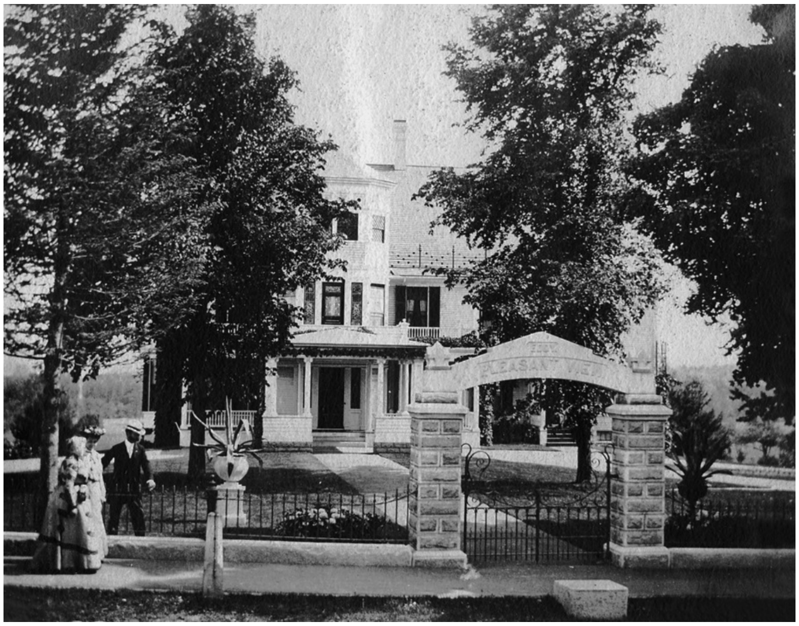
ブロンサン・オルコット

ハーストの幼い息子は幽門が閉ざされた状態で生まれたと診断された。回復の見込みがない病気で、父親によるとその子は衰弱して「実際、骨と皮ばかりにやせてしまった」のである。この危険な状態のときに、**キリスト教科学**についての情報がハーストの大邸宅にもたらされた。ハーストは、息子は一晩で癒されたと語った。その息子は、何年も後にハースト家の新聞を「父よりかなりよく」経営した。（ウィリアム・ランドルフ・ハースト、*Los Angeles Examiner*（ロス・アンゼルス・エクザミナー）、1941年7月17日号）。この癒しに続き、父ハーストは、自分の新聞はエディ夫人やその宗教を攻撃する記事を掲載することがないようにと命令した。事実、彼らは彼女を支援する記事を掲載した。

他の支援者のなかには、著名な作家で社会改革家のブロンサン・オルコット（『若草物語』の作者の父）、赤十字社の創設者のクララ・バートン、有名なジャーナリストのアーサー・ブリスベーン、そして、エディ夫人の最初の伝記を書いた学究的なリポーターの先駆者、シビル・ウィルバーがいた。

著名人、プライバシーを守る生活

家庭と呼ぶ場



プレザザント・ビュー、ニューハンプシャー州コンコード

「家庭は、地上において、最も愛しき所である」*とエディ夫人は書いている。成人してからずっと色々な所で彼女は家庭を築いていった。彼女はよくマサチューセッツの人と呼ばれる。最も重要な25年間、彼女はリン、スワンプスコット、エーメスベリ、ストートン、そして、教会の本部が今日まで存在している州の州都ボストンなど、マサチューセッツ州の町や市で生活した。しかし、生涯のほとんどである65年間、彼女は自分の故郷ニューハンプシャー州ですごした。

どこにおいても、家庭の中心は彼女の書斎であった。それは彼女が考え、祈り、研究し、執筆し、スタフたちと会うくつろげる空間であった。

1903年の写真には、彼女が机のそばに座り、スタフたちに囲まれている姿がある。彼女のまわりには、たんすに飾られたり、窓の間にかけられたりしている、感傷的な細々した置物や友人たちからの贈り物が見られる。

*「家庭は、地上において、最も愛しき所であり、みなの愛情の中心となるべきであって、限界線となってはならない」。（メリー・ベーカー・エディ著『**科学**と健康ー付聖書の鍵』p.58:15）

著名人、プライバシーを守る生活

メリー・ベーカー・エディが家庭と呼んだ場

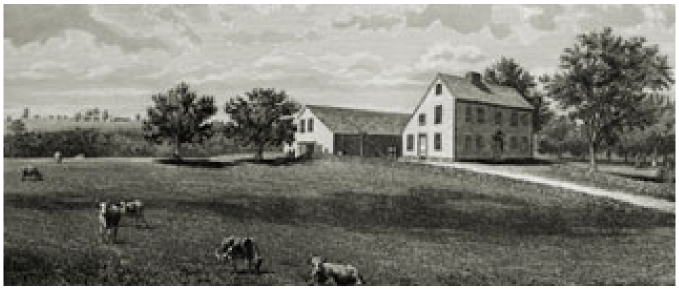
メリー・ベーカー・エディの生涯の初めの半分である1821年から1864年までの間、彼女は主にニューハンプシャー州で生活していた。それから、その後の重要な25年間を、マサチューセッツ州で過ごした後、故郷の州に戻り、そこで、それからの20年間のほとんどを過ごした。1908年1月に、マサチューセッツ州に再度戻り、チェスナット・ヒルでその後の3年間を過ごした。そこで、1910年12月に逝去した。

= ロングイヤー・ミュジアムが修復し、史跡として維持している家屋

(この詳細については、次のサイトをご覧ください：

Mary Baker Eddy Historic Houses)

ニューハンプシャー州ボウのベーカー農場



ニューハンプシャー州ボウ、1821年～1836年。ベーカー家の農場にある彼女の誕生の場には、その当時の家屋と納屋の輪郭がプレートと石で印されている。

ニューハンプシャー州ティルトン、1836年～1853年。1836年に、メリーが14歳のとき、ベーカー一家はサンボートン（現在のティルトン）へ引越した。彼女はここで、1843年12月にジョージ・ワシントン・グローバーと結婚し、クリスマスの日に、夫と伴にサウスカロライナ州チャールストンへ向かった。6ヵ月後に彼女は未亡人としてここに戻った。息子のジョージ、ジュニアは、ここで誕生した。そしてここで、20年間にわたり事実上絶え間なく続いた彼女の半病人の生活がはじまった。ティルトンのベーカー家の家屋は移転され、その後の所有者たちにより外観は変えられた。

ニューハンプシャー州フランクリン、1853年～1855年。 1853年にダニエル・パターソンと結婚した後、パターソン夫妻はここに引越した。ここで彼は歯医者の仕事に従事し、彼女は健康の回復に努めた。

ニューハンプシャー州ノース・グロトン、1855年～1860年。パターソン夫妻は、この家に1855年に引越した。家の近くで、パターソンは製材所を開いた。5年後に、家と製材所を抵当流れで失った。

ニューハンプシャー州ラムネイ、1860年～1862年。この借家で、メリー・B・パターソンは、病弱な健康状態と闘い、同種療法やその他当時行なわれていた治療を試みた。

ニューハンプシャー州ティルトン、ニューハンプシャー州ヒル、メイン州ポートランド、マサチューセッツ州リン、1862年～1865年。しばしば生活に困り、家族の支援に頼り、パターソン夫妻は度々引越した。メイン州、ポートランドに滞在していたとき、彼女は、そこで、磁気を使って癒していたフィネアス・P・クインビーの治療を受けた。

マサチューセッツ州スワンプスコット：パラダイス・ロード23番地、1865年～1866年。パターソン夫妻が、リン郊外のこの町で部屋を借りていたとき、彼女はある癒しを経験し、これが、彼女が**キリスト教科学**（Christian Science）と名づけることになった発見へと導いていった。

マサチューセッツ州エームスベリ、1868年、1870年。彼女は、この期間に、リン、スワンプスコット、イースト・ストートンやタウントンで色々な家に、客人としてまたは借間をする者として、数日間、数週間または数ヶ月間ずつすごしながら、教えたり、癒したり、聖書の研究をしたりしていた。エームスベリのハグリー家は、これらの家々の典型であった。

マサチューセッツ州ストートン、1868年～1870年。彼女はここで落ち着いた一年半を、4人目の生徒であったサリー・ウェントワースの家で過ごした。平安に満ち静かなこの家で、彼女は教えるための教科書作成と創世記についての注釈にたずさわった。

マサチューセッツ州リン、色々な住所、1870年～1875年。しばらくの間、彼女は教え、生徒の一人と伴に癒しの実践を続けた。それから1872年に、公の癒しの実践から身を退き、クラスも中止した。次の3年間は『**科学**と健康』の執筆に没頭した。執筆し、出版社を捜している間、彼女は一年間に8度も借間から借間へと引越すことを余儀なくされた。それは貧しさのためであったり、またしばしば彼女の教えに対する反対があったりしたためであった。

マサチューセッツ州リン、ブロード・ストリート8番地（現在のブロード・ストリート12番地）、1875年〜1881年。1875年に、彼女は家を購入し、そこで、『**科学**と健康』の初版を完成させ出版した。そして、教え、説教をし、（科学者）キリスト教会とマサチューセッツ・メタフィジカル・カレッジを設立した。ここで、1877年に彼女とアサ・ギルバート・エディは結婚した。

マサチューセッツ州ボストン：コロンバス・アベニュー569番地と571番地、マサチューセッツ・メタフィジカル・カレッジ、1882年〜1889年。1882年に、エディ夫妻はこのボストンのタウンハウスを借り、569番地を彼らの自宅とカレッジとした。引越してから数週間後にギルバート・エディは逝去したが、その後も、1884年までエディ夫人はここに住み、教えた。そして、1884年に、隣の部屋である571番地へ引越した。1887年まで彼女はここで生活し、教えた。この建物は今では商業用ビルとなり、外観は大きく変わっている。

マサチューセッツ州ボストン：コモンウェルス・アベニュー385番地、1888年〜1889年。エディ夫人は、ボストンで有名な大通りにあるこの家を購入し、そこに住んだ。その当時彼女は12ブロック離れたカレッジで教えていた。この家は母教会が所有し、『教会規範』に規定されている通り、教会の第一朗読者が3年の任期中に住む家となっている。

ニューハンプシャー州コンコード：ノース・ステイト・ストリート62番地、1889年〜1892年。5月22日にエディ夫人とそのスタフはボストンを離れた。6月までに彼らは、ニューハンプシャー州州都の中心に位置するこの借家に落ち着いた。ここで彼女は『**科学**と健康ー付聖書の鍵』の第50版の改訂を行ない、*Retrospection and Introspection*（『回顧と反省』）を執筆し、「**キリスト教科学**クォータリー」に着手し、教会を再編する準備をした。

ニューハンプシャー州コンコード：プレザント・ビュー、1892年～1907年。1891年の終わり頃に、エディ夫人はコンコードのはずれのプレザント・ストリートにある2階建の農家を購入した。1892年にその家を改造し広くした後、彼女とスタッフは、彼女が「プレザント・ビュー」と名づけた家に移った。彼女はここで15年半すごし、子供の頃から住んだどこよりも長く住んだ家となった。壮大ではなかったが、住みごこちのよいプレザント・ビューは、彼女の家庭に対する愛を反映した、暖かい睦まじさにあふれていた。ここで、彼女は教会を再編し、その『規範』を執筆し、『**科学**と健康』の第226版の準備をし、**キリスト教科学**運動を導いていった。1908年に彼女はボストン地域に戻るためにプレザント・ビューを去った。1917年に、この家は取り壊され、母教会はそこに、高齢の**キリスト教科学**実践士や看護士のための施設を建設し、1975年まで運営していた。現在はこの土地に、**キリスト教科学**とは関連のない大きく拡大された老人ホームが建てられている。かつてプレザント・ビューを訪れた人々を歓迎した門や芝生の上にあった噴水と見晴し台は、今はロングイヤー・ミュジアムの敷地内に設置されている。

チェスナット・ヒル：マサチューセッツ州ニュートン、ビーコン・ストリート400番地、1908～1910年。1908年1月に、彼女はプレザント・ビューを去り、ボストン近郊のチェスナット・ヒルの新居へ移った。最後の住居となったチェスナット・ヒルの館は、増大したスタッフみなが住むには十分な広さであったが、壮麗な館ではなく、設備の整ったつつましやかな広い館であった。ここで、彼女は*The Christian Science Monitor*（「ザ・クリスチャン・サイエンス・モニター紙」）を創刊し、教会を導き続け、記事を書き、主要な著書、『**科学**と健康－付聖書の鍵』を含む彼女の著書の改訂を行った。

晩年

1908年1月に、エディ夫人はニューハンプシャー州コンコードから、マサチューセッツ州チェスナット・ヒルへ引越した。ここで、それからの3年間に、彼女は*The Christian Science Monitor*（「ザ・クリスチャン・サイエンス・モニター紙」）を創設し、**キリスト教科学**による看護について定め、『**科学**と健康』と『教会規範』の改訂を続け、後の著作である*The First Church of Christ, Scientist, and Miscellany*（『第一科学者キリスト教会と雑文集』）の編纂を完成させた。

1909年の終わり頃に、ニューヨーク市での**キリスト教科学**運動を二分しかねない、騒然とした問題を沈静するために、彼女は介入し調停した。年末が近づき、彼女はクリスマスの日を、いつものように、机に向かい、秘書とともに手紙に目を通して、過ごした。1910年に、エディ夫人は『**科学**と健康』のドイツ語訳を正式に認可し、自分の短い書き物の改訂をし、いくつかの記事を書いた（その中には、*Sentinel*［センティネル］9月号に掲載された**キリスト教科学**の正確な実践についての鋭い論文も含まれている）、そして、自分の詩の小さな選集を編纂した。メリー・ベーカー・エディは、89歳の年に、教会を直接的に指揮することからは退いてはいたが、なおも、大いに**キリスト教科学**の指導者であった。

1910年11月の末に、彼女はひどい風邪の症状と戦っていた。12月1日、いつものように、馬車で出かけた。帰宅すると、彼女は書斎の長いすで横になった。少し経つと、紙と鉛筆を持ってくるように指示し、「**神**は私の生命である」というたった一つの力あふれる文を書いた。それは、この命題のために、全人類に捧げた生涯にふさわしいまとめであった。

12月3日の夕方に彼女は逝去した。追悼の礼拝は、12月8日に彼女の家で行なわれた。ケンブリッジのマウント・オーバーン墓地に埋葬された。その場所は今では円柱で囲まれて、小さな池に臨んでいる。

世界への彼女の遺産の一部は、**キリスト教科学**の実践であり、ほとんど150年間にわたり、何万という身体的癒しや道徳的再生についての証を記録し続けている。

メリー・ベーカー・エディ

キリスト教科学の発見者・創始者・指導者
『**科学**と健康ー付聖書の鍵』の著者

主要な年月日

1821 7月16日、ニューハンプシャー州ボウ：マーク及びアビゲイル・ベーカーの娘、メリー・モース・ベーカー誕生。

1843 12月10日、ニューハンプシャー州サンボーントン（現在のティルトン）：サウスカロライナ州チャールストンのジョージ・W・グローバーと結婚。

1844 6月27日、ノースカロライナ州ウィルミントン：ジョージ・グローバー死去。未亡人となり、ほとんど無一文で、身重であったメリーは、サンボーントンのベーカー家へ戻る。
9月12日：ジョージ・グローバー、ジュニア誕生。
メリー、これ以降20年間余りにわたり病気と病弱状態が続く。

1851 5月：ジョージ、ジュニア、ニューハンプシャー州ノース・グロトンの里親、チェニー夫妻の家族と同居。
メリーの健康状態は悪化しはじめる。それ以降、ニューハンプシャー州サンボーントン、ノース・グロトン、そしてラムネイに住んでいた間中、寝たきりの状態が続く。

1853 6月21日：息子のための家庭を築くことを期待し、ニューハンプシャー州フランクリンの歯科医師、ダニエル・パターソンと結婚。

1855 息子（ジョージ）の近くに住むため、パターソン夫妻ニューハンプシャー州ノース・グロトンへ引越す。

1856 チェニー夫妻、11歳のジョージを連れてミネソタへ引越す。これ以降、メリーは1861年まで息子との連絡を絶たれる。

1860 パターソン夫妻、ニューハンプシャー州ラムネイへ引越す。

1862 10月、メイン州ポートランド：磁気を用いて癒すフィネアス・クインビーをはじめて訪問。健康状態は一時的に良くなる。

1865 9月、マサチューセッツ州リン：パターソン夫妻、マサチューセッツ州に住居を構える。
マサチューセッツ州リン：パターソン、歯科医の仕事を再開。夫妻はリンに居住。その後スワンプスコットに居住。

1866 2月、マサチューセッツ州スワンプスコット：凍結した氷の上で転倒し、命にかかわる重態状態に陥ったが、祈りにより癒される。
１年間にわたり、癒しを行い、聖書を研究し、自分の発見を探求する。（後に、この発見を**キリスト教科学**［Christian Science］と名づける。）夫、ダニエル・パターソン、彼女の元を去る。

1867 マサチューセッツ州タウントン、エームスベリ、ストートン、リン：祈りによる癒しを人々へ教え始める。亡くなった初めの夫の名前、グローバーを再び使い始める。

1872 The Science of Life （『生命の科学』）の原稿を執筆し始める。これは、後に *Science and Health （『科学と健康』）と改題される。*

1873 離婚合意を得る。これは結婚してから20年後であった。

1875 3月、マサチューセッツ州リン：ブロード・ストリート８番地の家を購入。
10月30日：『**科学**と健康』を出版（後に『**科学**と健康－付聖書の鍵』という題になる）。

1877 1月1日、リン、ブロード・ストリート：アサ・ギルバート・エディと結婚。

1878 エディ夫妻、日曜日にボストンへ通い始める。ボストンでエディ夫人は礼拝を司り、説教を行なう。

1879 ボストン：（科学者）キリスト教会、認可される。エディ夫人、牧師として招聘される。
ボストン/チャールストン：（科学者）キリスト教会の第一回目の礼拝。

1880 1月～6月、ボストン：エディ夫妻は様々な場所に居住。エディ夫人は,説教をし、講演をする。
10月、リン：エディ夫人と生徒たち、マサチューセッツ・メタフィジカル・カレッジを設立。

1881 1月31日、リン：マサチューセッツ・メタフィジカル・カレッジ、ボストンにて認可される。

1882 1月：エディ夫妻、リンから引越す。エディ夫人、一連の講演をワシントンDCで行なう。
4月：エディ夫妻、ボストンに落ち着く。
5月：カレッジのクラスを開始。
6月：ギルバート・エディ死去。
9月：エディ夫人、ボストンにて集中的活動を始める。7年間にわたり集中的に教授、説教、講演、及び執筆活動を行なう。

1883 4月、ボストン：*Journal of Christian Science* （「ジャーナル・オブ・クリスチャン・サイエンス」）第１号。後に*The Christian Science Journal*（「ザ・クリスチャン・サイエンス・ジャーナル」）となる。

1889 5月：ボストンを去る。
6月：ニューハンプシャー州コンコード、ノース・ステイト・ストリート62番地の借家に落ち着く。ボストン市所在（科学者）キリスト教会の牧師職を退く。キリスト教科学者協会（1876年に創立）及びマサチューセッツ・メタフィジカル・カレッジを解散。
ボストン市所在（科学者）キリスト教会の正式な組織を停止。教会は礼拝を続ける。

1891 1月、ニューハンプシャー州コンコード：主要な改訂後、『**科学**と健康－付聖書の鍵』第50刷を出版。
11月：*Retrospection and Introspection*（『回顧と反省』）を出版。

1892 6月、ニューハンプシャー州コンコード：ニューハンプシャー州コンコード郊外の農場プレザント・ビューへ引越す。
9月23日：4人の理事と12人の科学者キリスト教会初代会員による科学者キリスト教会を再編。

1893 12月：挿絵入り詩 *Christ and Christmas* （『**キリスト**とクリスマス』）を出版。

1894 母教会（旧館）を建設。収容人数は約1000人。12月に最初の礼拝を行なう。

1895 聖書と『**科学**と健康－付聖書の鍵』を牧師として任命。
9月：『母教会の規範』初版を出版。

1897 2月：*Miscellaneous Writings* 1883-1896（『散文集1883年～1896年』）を出版。

1898 メリー・ベーカー・エディ、1年間にわたる集中的活動により教会組織を強化。
講演委員会を設立し、無料講演会を通して**キリスト教科学**についての事実を一般に紹介。
信託証書により**キリスト教科学**出版協会を創設。

教育院を設立し、**キリスト教科学**を教える機関とする。
各週の聖書教課の26の主題を編纂し、決定する。個人は聖書を勉強するために、科学者キリスト教会は説教として、用いる。
週刊誌*Christian Science Weekly*（「クリスチャン・サイエンス・ウィークリー」）を発刊。これは後の*Christian Science Sentinel*（「クリスチャン・サイエンス・センティネル」）となる。
最後の師範クラスをニューハンプシャー州コンコードで開催。（選ばれた68名の生徒が出席。）
渉外部を設立。出版物による**キリスト教科学**に対する一般の誤解に対応。
詩*Christmas Morn*（「クリスマスの朝」）を出版。

1899 ジョセフィーン・ウッドベリー、メリー・ベーカー・エディと、教会および出版協会の役員に対し、文書による訴訟の申し立てを起こす。

1901 ウッドベリーによる訴訟、エディ夫人及びその他の被告人に有利な判決が下りる。

1902 主要改訂後、第226刷『**科学**と健康ー付聖書の鍵』を出版。

1903 母教会ドーム型新館の建設開始。

1906 6月10日：母教会新館献堂式。新館の収容人数は5000人。
The First Church of Christ, Scientist, and Miscellany （『第一科学者キリスト教会と雑文集』）のための資料を収集、編集する。

1907 3月1日：「近友」訴訟—86歳になろうとしていたメリー・ベーカー・エディには事業運営能力はないことを証明しようとする。6ヵ月後、適正能力があることが反駁の余地なく証明され、原告は訴訟を取り下げる。

1908 1月26日：仕事の補佐をするスタフたちとマサチューセッツ州ニュートン、ビーコン・ストリート400番地へ引越す。
11月25日：*The Christian Science Monitor* （「ザ・クリスチャン・サイエンス・モニター紙」） 第一号を発刊。

1909 ニューヨーク教会の指導者、オウガスタ・ステットソン、離脱し、破門される。

1910 『**科学**と健康ー付聖書の鍵』と『母教会の規範』の最後の改訂を行なう。
12月3日：エディ夫人死去。
12月17日：『母教会の規範』第89版、出版される。

1913 *The First Church of Christ, Scientist, and Miscellany”* （『第一科学者キリスト教会と雑文集』）出版される